

ヒストリア

第 305 号

論 文

高安千塚古墳群の卓越性について

——石室構築技術等の比較検討から——…………… 吉田 野乃 (1)

鎌倉幕府の紛失安堵とその文書実践 …………… 高橋 一樹 (28)

研究ノート

播磨国伊河荘地域の南北朝内乱と地頭藤原氏の動向 … 池田 拓哉 (56)

地域の歴史を守り伝える

まちの記憶を缶詰に

——みんなで作るデジタル・アーカイブ—— …… 金淵 信一郎 (79)

報 告

大阪市文化財協会の解散 当事者の想い …………… 積山 洋 (87)

大阪の文化を根絶やしにする大阪市文化財協会解散に反対

…………… 白川 俊義 (92)

大阪市に質問状を提出 …………… 大阪歴史学会 (96)

2024 年度大会・総会の記録 …………… (102)

委員会報告

2024 年 8 月

大 阪 歴 史 学 会

編集後記

『ヒストリア』三〇五号をお届けします。論文が二本、研究ノートが一本、地域の歴史を守り伝えるが一本、報告三本、となっております。ぜひご味読ください。

前号に続き、大阪市文化財協会の解散にかかわる報告を掲載しています。私の職場とともにかかわりが深い組織ですが、報告にあるように、解散の決議にいたる経緯や、大阪市文化財協会が担ってきた役割を今後どう継承していくかの見通しが不透明な状況が続いています。

そんな中、七月五日から八月二六日にかけて、難波宮発掘開始七〇周年を記念する特別展「大化改新の地、難波宮―古代日本のターニングポイント―」を開催しています。

本展では、展示の締めくくりとして、一九五四年にはじまる難波宮の発掘調査の成果物を展示し、文化財協会のあゆみと役割の大きさを紹介しています。ここでは、一九七九年に発足した大阪市文化財協会の事務所で、二〇〇〇年に建て替えられるまで掲げられていた看板を展示しています。先日来館した積山氏は、「あの部分に掛けていた」「あんなに黒かったかな」と感慨深げに言及されており、印象的でした。本誌が会期終了までに刊行されるかわかりませんが、この機会に、ぜひご観覧ください（宣伝ではありません）。

（島崎 未央）

二〇二四年度 委員

代表委員 市沢 哲
事務局長 高岡 裕之
庶務委員 岡崎 怜央 鷲見 涼太 吉田 隼人
編集委員 岸本 直文 櫻木 潤 磐下 徹 高木 純一 永野 弘明
海原 亮 島崎 未央 尾崎 智子 池田 さなえ
企画委員 北山 峰生 エミル マルテ アンデルセン
谷口 正樹 谷内田 智成 江坂 正太
特別委員 山本 幸男（日歴協31期21〜23年度）

ヒストリア 第三〇五号 定価 九〇〇円（送料別）

二〇二四年八月二〇日発行

編集兼発行所 大阪歴史学会

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町一―一五五

関西学院大学文学部

高岡裕之研究室気付

<http://www.historia-osaka.on.arena.ne.jp>

※乱丁・落丁がありましたら、ご連絡をお願い致します。

大阪歴史学会への連絡は、郵便（はがき・封書）か電子メールでお願いします。電子メールは本会ホームページのトップにある「お問い合わせ」から送信して下さい。大阪大学大学院文学研究科に電話・FAXされても連絡はつきません。

印刷所 株式会社 信利

〒545-0001 大阪市阿倍野区天王寺町北二―四―一六